

# 令和4年度 学校運営協議会評価書

## 1 自己評価全般について

学校長をはじめすべての教職員・児童・保護者が目標を共有し、子どもたちの学力や体力の向上に向け、日々努力を重ねられた結果が、評価項目の達成度を高めたと思います。年度により、達成度の違いは生まれますが、各項目で90パーセントを超える評価ができたことは、各委員からも大変うれしく思うとの声が寄せられました。ただ、100パーセントでない以上、また仮に100パーセントであったとしても、そこには支援を必要としている子どもがいます。しっかりと現実の子どもの姿を見て、その子どもに応じた学びや自立への支援を怠ることのないよう、より一層の教育活動が進められるよう期待します。

今年度は、子どもの学びを豊かにできるよう、地域とのつながりを一歩前に進めることができたと思います。各学年にわたり年次計画に基づき、市民センターを起点にした地域づくり協議会と連携・協働での教育活動が展開され、学校と地域でつくる子どもの学びを生み出すことができました。一つ一つ焦ることなく継続していくことが、今後も重要であると考えます。



学校運営協議会

## 2 学校から提示された「課題」や来年度への方向性について

第2回の協議会では、「学校・家庭・地域ができることは」と題して、教職員と協議会委員が少人数によるブレインストーミングを行い、課題意識を共有し、それぞれが果たす役割を確認できました。また教職員との交流もでき、今後も可能な限り設定できれば良いと考えます。

さらに、この話し合いの中から、「子どもの思いや意見」は反映されているかとの課題が生まれ、来年への重要な視点となりました。早い段階で、実行できるとよいと考えます。

また、令和5年度から、地域づくり協議会組織に小学校との学びを推進する実行委員会が位置づけられ、よりつながりやすく進めやすくなっています。共に学びをつくりウィンウィンの関係をさらに広げていけるような取り組みの推進が期待されます。

教職員の働き方改革については、これまでも様々な工夫や意識改革をすることで取り組まれてきましたが、コロナ禍のことも影響し現実にはなかなか達成が難しい状況にあります。若年の教職員も多くなり、教職員数も多くないことから早い段階での定数改善が望まれます。ボランティアの方々や支援者だけでは解決できない問題であると考えます。



全委員と全教職員での熟議

## 3 その他

引き続きコロナ禍で、子どもも教職員も保護者も経験したことのない3年間でありました。そんな中でも、地道に教育活動を進められた教職員の皆様、また支えとなっていただきました教育関係の皆様・保護者様に感謝と敬意を表します。